

# 1

## 山口県の風水害(大雨、台風・高潮 など)

◆ 山口県は、本州の最西端に位置し、中国山地により山陽と山陰に区分され、平地が少なく、地形が複雑に入り組み、急な傾斜地が多い。また、河川は一般に幅が狭く、流れが急なものが多く、地質的にも風化しやすく浸食に弱い花崗岩地帯も多いことから、梅雨前線の停滞・活発化や台風の接近・上陸等による大雨で、洪水・浸水、土砂崩れ・土石流などによる被害が、過去、数多く発生している。

また、最近、雨の降り方が局所化・集中化・激じん化していることから、このような豪雨による災害も発生し、大きな被害が出ている。

◆ 勢力の強い台風が、九州の西の海上を弱まることなく北上し、対馬海峡を通過したときや、長崎県に上陸した後北東に進んだ場合には、台風による強風や大雨により、過去、大きな被害が発生している。

また、周防灘沿岸は、対岸距離が長く、入り江、湾形の多い南向きの海岸であるため、台風がこのようなコースをとれば、猛烈な風により瀬戸内海や豊後水道から海水が吹き寄せられることから、高潮による災害も発生している。

